



みんなとつながる。こうほうごじょう。

広報五條

人 権 特 集 号

第45回

差別をなくす市民集会

テーマ

“車いすダンスから輝く未来へ”

7.9 (土)

受付：午後1時00分

開会：午後1時30分

会場：市民会館大ホール

講師

はやし さ え

林佐恵とジェネシスオブエンターテイメント



7月11日(月)

特設人権相談

場所◎牧野公民館

人権総合センター

賀名生公民館

大塔支所

時間◎10時～15時

(大塔支所は13時～15時)

人権擁護委員が相談に応じます。

7月15日(金)

人権・同和問題講演会

場所 人権総合センター

時間 19時～20時30分

講師 栗木 剛さん

活動略歴 2007年 車いすダンス競技大会東京グランプリ クラスI ラテン 優勝
 2013年 スーパーチャップリン車いすダンス杯-東京グランプリ クラスI ラテン3種目総合優勝
 2014年 2014インフォパリアル杯車いすダンス部門日本代表として出場し、第5位入賞
 ～林佐恵プロフィール～

小学4年生のころより車いすを利用する。小中学校では休みがちだった学校も、エレベーターやスローのある通信制高校に入学し、様々な年代や経歴のあるクラスメイトとの交流から、学校が楽しいと感じる時間を過ごす。

車いすダンスのほか、スキューバダイビングや歌舞伎観劇、芸術鑑賞など充実した日々を過ごしている。

現在は企業勤務のかたわら、企業人としての視点を生かし、「障害のある人＝何もできない人、助けてあげるべき人ではない。誰にでもできることがある。できないことに目を向けなくて、できることをもっと大切にしたい。」ということ、自らの車いすダンスを通じて伝えるため、ダンスの練習に日々励んでいる。



人権推進ポスターと標語を紹介します

阪合部小学校1年 中迫美衣菜



阿太小学校2年 山内さくら



五條小学校2年 栗岡湖里



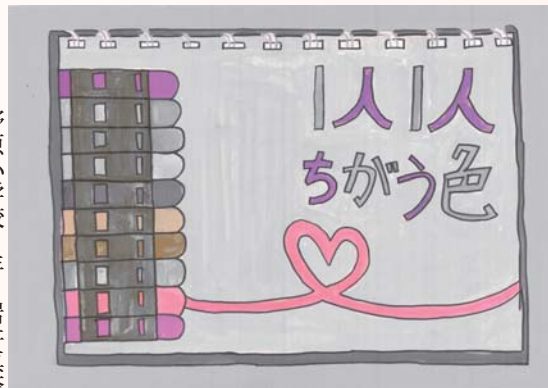
牧野小学校3年 小笠原菜月



五條小学校4年 坂田優愛



野原小学校4年 岩井真奈



五條小学校5年 片岡ひかり



牧野小学校6年 伊井美佳



差別をなくす強調月間に、市内の小・中学生を対象としてポスターと標語を募集したところ、ポスター11959点と標語1128点の応募がありました。その中から優秀な作品を紹介します。(敬称略)



五條東中学校2年 田中里歩



五條西中学校2年 亀岡春菜



牧野小学校5年 津田悠妃



野原中学校2年 山口真実



五條東中学校2年 三箇深鈴

人権啓発標語

- ▼ 生まれた時 みんながもらった
認定証
森本こころ (五條中学校1年)
- ▼ 言葉は凶器にもなり、
希望にもなる
岡瑚心 (五條中学校2年)
- ▼ 「ごめん」が言える勇氣と
「ありがとう」が言える
優しさを大切に
和所竜洋 (五條西中学校3年)
- ▼ ノートに悪口 字は消せても
傷は消せない
小松ほか (五條西中学校3年)
- ▼ 笑顔咲く 君と僕との宝物
森本夏美 (五條東中学校2年)
- ▼ 差し出す手 あなたを救う
希望の光
益田吉輝 (五條東中学校2年)
- ▼ 笑顔は幸せのたね
咲かせよう幸せの花
田中美玲 (野原中学校1年)
- ▼ あなたが一步ふみだせば
きっとだれかが すくわれる
一言で 広がる笑顔
山口真実 (野原中学校2年)
- ▼ 広がるきずな
久保充加 (西吉野中学校3年)

ポスター・標語展示会 下記の日程で市内各所で展示しています。

	展示場所	展示期間
ポスター (写真) 標語 (県提出分)	市役所	7月29日(金)まで
	市民会館	7月9日(土)市民集会当日
ポスター (一部・写真)	イオン五條店	7月2日(土)~13日(水)
	五條郵便局・南都銀行	7月29日(金)まで
	市ホームページ・こまどりケーブル	7月31日(日)まで
ポスター (原画)	須恵・二見・牧野・田園・阪合部・宇智・ 北宇智公民館、大阿太・南阿太郵便局、 人権総合センター、カルム五條、児童館、 西吉野支所、大塔支所	8月31日(水)まで

- ▼ 築こうよ 個性が生きる
明るい社会
辻本愛美 (西吉野中学校3年)
- ▼ たくさんの 笑顔が平和に
つながるよ
谷屋真央 (智辯学園中学校1年)
- ▼ 悪口は 心のけがを
増やすだけ
新谷琴子 (智辯学園中学校2年)

～これまでの取り組みの成果と教訓を生かして～
心ゆたかに「人権のまちづくり」へ向かっての
うねりを確かなものにしていこう

「戦後七十年の今」

市内中学三年生

今年の五月に修学旅行で沖縄

に行つて、平和学習をしました。沖繩では、皆でひめゆりの塔を訪れ、慰霊塔の前に亡くなった方々への祈りを捧げました。七十年前の太平洋戦争中、日本で唯一地上戦が行われた沖繩では、たくさん尊い命が失われまし

た。その犠牲者の中には、自分と同じ歳の中学生もたくさんいました。男子は戦いに参加し、女子は怪我をした兵隊の治療をしていました。

ひめゆり平和祈念資料館も訪れ、沖繩戦を体験したひめゆり学徒隊だった人が、怪我をして足を切らなければいけなくなつた兵隊の足を切つたという手記を読みました。他にも、米軍から攻撃され、体が傷だらけになっている人の写真も見ました。それらの多くの資料や写真を見て、自分が最初に感じたのは『怖さ』でした。地上戦を体験した人たちは、自分が資料や写真を通して感じた『怖さ』を実際に生身で感じたのだと思うと、とても悲しい気持ちになりました。自分がいつ死んでもおかしくな

い状況に立たされる恐怖は、戦争と無縁の今を生きる自分には分らないし、死ぬまで分らないです。戦争は人々から自由を奪い、生命を奪いました。そんな悲惨な戦争はもう二度と起きないでほしいです。

けれど、世界の各地でテロや紛争が、今この瞬間にも起こっています。中学生にもなれば、世界を平和にするためには、笑顔や思いやりだけではどうにもならないことはわかります。それならば、あと何が必要でどうしたら世界中の人々全員が平和に過ごせるのかと聞かれても僕はすぐに答えることができませ

ん。たぶん、僕のように答えることができない人がほとんどだから、テロや紛争がなくならないのだと思います。そこで、このことを自問自答してみました。僕たちが生まれてきたときから携帯やパソコンが身近に普通にあるように、アメリカなどの国の人たちは、生まれたときから銃が当たり前のようになっています。銃を身近に感じ携帯し使用することは、護身用に過ぎず、

特に何も感じていないと僕は思います。銃で人を傷つけようとすることに罪悪感の感じ方が違うのだと思います。テロや紛争では必ず銃が使われています。このように文化や価値観の違いも世界の平和に大きく影響していると思います。それでも笑顔や思いやりは平和の原点だと思うので、忘れないようにしなければならぬと思います。

戦後七十年の今、僕ができることは、もつと英語を勉強して世界の人たちと情報交換したり、コミュニケーションをとれるようにしたりすることです。そうすれば国ごとの文化や価値観の違いにも気づけるはずで

す。僕が考えるもう一つの身近にできる平和活動は、一人ひとりが国内外の政治や世界情勢に関心をもち、そのために新聞を読み、テレビ等のニュースを見るということだと思います。一人ひとりが少しでも平和を自分のこととして考えることで、テロや紛争は減っていくと僕は確信しています。

2015年度五條市人権教育研究会
人権作品集「くらしをつづる」第49集より

2015年度
第26回 明るい差別のない
職場づくり標語入選作品
(順不同 敬称略)

知らない 見てない 関係ない

無関心から 広がる差別

松本 和也

(福) 祥水園

あいさつが 職場の未来と

自分をかえる

中島 祥和

(宗) 辯天宗

いつの日も 感謝の心

忘れずに

藤代 夏江

(株) 柿の葉すし本舗たなか

ありますよ 一人一人の

良いところ

井奥 祐輔

広陵化学工業(株) 五條工場

ひとごとと 見ぬふりやめて

仲間の輪

田仲 宏章

関西電力(株) 五條技術

サービスセンター

気配り一つで 信頼できる

職場づくり

石本 裕子

(株) 十川ゴム 奈良工場